

Title	社会心理学研究の再現可能性検証
Sub Title	Replication project for social psychology
Author	平石, 界(Hiraishi, Kai)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究課題は、社会心理学の先行研究の追試を行い、その再現性を検討することを目的としている。2017年度は、前年度までに取得済みの異性の性的意図の読み取りにおける性差を扱ったHaselton & Buss (2000)、祖父母から孫への愛情への偏りを扱ったLaham et al (2005)、出生順による家族への愛着の差を扱ったSalmon & Daly (1998)の追試結果について、日本社会心理学会および犬山認知行動研究会において報告を行った。これらをまとめた投稿論文を執筆中である。Laham et al (2005)については、先行研究の結果は再現されたものの、核家族化などの影響が考えられたため、高齢者を対象としたデータ取得を行った(データ未分析)。これらの研究は全てOpen Science Framework上で事前登録を行った上で実施した。</p> <p>また2017年度には新たに2つの研究の追試を開始した。一つはMilgram (1977)以来、諸外国で実施されてきたフィールド実験手法であるLost Letter法による研究である。Lost Letter法は2010年台に入ってからその価値が再発見されつつある。今回は特にロンドン市における地域差を扱ったHolland et al. (2012)の追試を東京において行うことを目指した。フィールド実験という特殊な手法であるため、事前登録にむけた予備実験として実施した。先行研究とは異なった傾向の結果が得られたが、技術的な問題点もあるため、それらを検討して2018年度に本実験を実施したい。出生順によるパーソナリティの違いを扱ったHealey & Ellis (2007)については、予備実験、本実験ともに先行研究を再現する結果が得られた。近年、パーソナリティへの出生順の影響には懐疑的な方向が多い中、注目すべき結果と考えており、2018年度前半には投稿論文としてまとめたいと考えている。</p> <p>これらに加えて、心理学における追試研究の重要性についての啓発活動として、「基礎心理学研究」に論文を執筆した。</p> <p>This project aims to conduct replications of preceding social psychological studies. In 2017, we analyzed data from three replication studies conducted in 2016 and presented the results at the 58th conference of Japanese Society for Social Psychology. The replication targets were, Haselton and Buss (2000) that examined men's overperception of women's sexual intent, Laham et al. 2005) that examined biased grandparenting, and Salmon & Daly (1998) that examined middle-born's familial sentiments. We are currently collecting further data to see the reasons behind the success/failure of the replications. Part of the attempt has been presented at the Inuyama cognitive and behavioral science meeting.</p> <p>We also conducted two new replication studies. One is Holland et al (2012) that examined the regional differences within a city (London) using a famous field experiment paradigm : Lost-letter method (Milgram, 1977). The other is Healey and Ellis (2007) that examined birth-order effects on personality using the within-family comparison method. Both of the replications turns out to be positive.</p> <p>In addition, we worked to enhance the awareness among psychologists on the importance of replication studies.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170149

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	准教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	平石 界	氏名 (英語)	Kai Hiraishi		
研究課題 (日本語)						
社会心理学研究の再現可能性検証						
研究課題 (英訳)						
Replication Project for Social Psychology						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究課題は、社会心理学の先行研究の追試を行い、その再現性を検討することを目的としている。2017年度は、前年度までに取得済みの異性の性的意図の読み取りにおける性差を扱った Haselton & Buss (2000)、祖父母から孫への愛情への偏りを扱った Laham et al (2005)、出生順による家族への愛着の差を扱った Salmon & Daly (1998)の追試結果について、日本社会心理学会および犬山認知行動研究会において報告を行った。これらをまとめた投稿論文を執筆中である。Laham et al (2005)については、先行研究の結果は再現されたものの、核家族化などの影響が考えられたため、高齢者を対象としたデータ取得を行った(データ未分析)。これらの研究は全て Open Science Framework 上で事前登録を行った上で実施した。</p> <p>また2017年度には新たに2つの研究の追試を開始した。一つは Milgram (1977)以来、諸外国で実施されてきたフィールド実験手法である Lost Letter 法による研究である。Lost Letter 法は2010年台に入ってからその価値が再発見されつつある。今回は特にロンドン市における地域差を扱った Holland et al. (2012)の追試を東京において行うことを目指した。フィールド実験という特殊な手法であるため、事前登録にむけた予備実験として実施した。先行研究とは異なった傾向の結果が得られたが、技術的な問題点もあるため、それらを検討して2018年度に本実験を実施したい。出生順によるパーソナリティの違いを扱った Healey & Ellis (2007)については、予備実験、本実験ともに先行研究を再現する結果が得られた。近年、パーソナリティへの出生順の影響には懐疑的な方向が多い中、注目すべき結果と考えており、2018年度前半には投稿論文としてまとめたいと考えている。</p> <p>これらに加えて、心理学における追試研究の重要性についての啓発活動として、「基礎心理学研究」に論文を執筆した。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>This project aims to conduct replications of preceding social psychological studies. In 2017, we analyzed data from three replication studies conducted in 2016 and presented the results at the 58th conference of Japanese Society for Social Psychology. The replication targets were, Haselton and Buss (2000) that examined men's overperception of women's sexual intent, Laham et al. (2005) that examined biased grandparenting, and Salmon & Daly (1998) that examined middle-born's familial sentiments. We are currently collecting further data to see the reasons behind the success/failure of the replications. Part of the attempt has been presented at the Inuyama cognitive and behavioral science meeting.</p> <p>We also conducted two new replication studies. One is Holland et al (2012) that examined the regional differences within a city (London) using a famous field experiment paradigm: Lost-letter method (Milgram, 1977). The other is Healey and Ellis (2007) that examined birth-order effects on personality using the within-family comparison method. Both of the replications turns out to be positive.</p> <p>In addition, we worked to enhance the awareness among psychologists on the importance of replication studies.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
平石界	堪え性のない研究者からみた研究者のアイデンティティ	基礎心理学研究	2017年12月7日			
平石界, 野口貴滉, 高橋沙英, 豊生紗也, 曽根のぞみ, 田村幸大, 宮川彩花, 鈴木絵美, 布川結望, 渡辺春菜	家族と男女の進化心理学を追試する	日本社会心理学会第58回大会	2017年10月29日			
平石界	男の誤解という誤解	第一回犬山認知行動研究会	2018年1月7日			